

檄!

諒閣中島田硝子工場に於て争議勃發の止むなきに至つた事を我等は悲しむ。我等は戦の爲の戦を好まない。出来得べからざる我慢さへ續けて来た。彼等が黄金萬能を夢見て労働者を誘惑墮落せしめた悪徳行爲は頻數に亘つた。其結果或者の如きは殺人罪を犯して現在八年の刑期を服役中だ。之等島田孫市の醜陋事は彼の今後の態度如何に依つて別に公開状態として天下具眼の士の高批を煩はす事にするが、その頃の組合に對する壓迫は何も云つても消極的で就業員の憤激にまで値しなかつた。

然るに昨夏突如島本某云ふエタイの知れぬ素物がフワリミ入社して、庶務課長に就任してから組合員壓迫は積極的となり、虐虐の魔手は頻々として就業員の頭上に加へられた。尤も彼島本は社長が時代を見るの明なく組合嫌ひなる處へ附け入り、責任を以て組合を打潰すの條件で入社し、村田前支配人の後釜を盗んだ云ふ噂付の不徳義漢だ。

二十年からの勤続者に悪名を付けて誅首したのも、無病者に病者の名を與へて敵るのも、聞くも無惨な勞務を強いて苦痛に堪えず、辭職の餘儀なきに立至らしめて、制定解雇手當の支給を拒まんじしたる如き、陰惨なる迫害は彼島本の慘虐性の發露であつた。その都度誅首者からの抗議に對する彼の答へは私は諸君を誣るに忍びない爲に、種々取做して見たが社長が頑固して解雇の意志を任げないから私も同じ使用人の悲しさ如何にも爲し難い事を遺憾にする。さて誅首の憤怒の呪を社長に向けしめ自己の立場を善くする爲、責任を回避して社長を陥入れ、その野望を遂げんとする言語に絶した彼は破廉恥漢だ。

斯る悪魔を晏如たらしめる事は、會社の爲にも、我等就業員には尙の事探るべからざる處だ、依て我々は彼島本の存在を否定する。彼島本の挑撃を徹底的に主張するのだ。

労働者には團結の權利がある。之に依つてのみ労働者の生活がある。組合加入の迫害は此權利を蹂躪されるのだ。權利の蹂躪は労働者の生活が脅かされる事だ、組合を持たぬ労働者は奴隸の生活に等しいぞ。島田硝子工場から組合が消えたなら獸の様な彼島本の慘忍性は無遠慮に發揮されて、恐らく従業員は野良犬の様な生活に甘んぜざるを得ない様になるだらうし。馬の様にコキ使はれるであらふ事を覺悟しなければならぬ。諸君そんな惨めなとは考へても否じやないか、人間らしく生きる爲にお互が手を握り合つて飽まで悪魔と戦ふじやないか。

我々は茲に決然と彼等の挑撃に應じて起つた。あらゆる合法的手段に依つて勝たねばならぬ、燃え立つ總同盟精神は百煉の鐵になつて悪魔の醜態を粉碎するであらう、或は七首になつて彼等吸血鬼の肺に臨む時であらう。時としては白熱して悪徳漢の頭上に炸裂してその心魂を天外に飛ばすこともあらう。期する處我々は只合法的戦法に依つて彼をして、我等の膝下に屈服せしめん事を望む。

諸君緊陣一番お互に裏切者云はるるな我等の昭和二年の劈頭戦をして、勝利の榮冠に輝かせしめやふではないか。

昭和二年一月十一日

島田硝子工場争議團